


企画事業 「青少年体験活動総合プラン」

事業名	自然体験活動指導者養成研修 自然体験活動補助指導者養成研修Ⅰ・Ⅱ	
実施期間	研修Ⅰ：平成22年6月20日（日） 研修Ⅱ：平成22年8月4日（水）	
担当者	企画指導専門職 相澤 敬二	

I 事業の趣旨

青少年の社会性や豊かな人間関係の育成を図る上で重要な自然体験活動などの機会が減少しており、次代を担う青少年の育成を図ることが喫緊の課題である。

そこで、農産漁村における農業体験や自然に親しむ体験活動等の教育的教育効果を高めるとともに、青少年が安心・安全に体験活動を実施できるようにするために、青少年の健康、安全等生活に関わる指導や青少年の体験活動の指導補助を行う指導者を養成する。

II 事業の概要

1 事業の目的

全体指導者の指示で青少年の体験活動の指導補助を行ったり、教員等の指導補助として、青少年の健康、安全等生活にかかわる指導を行う「補助指導者」を養成することを目的とする。

今回、日帰りで補助指導者養成講習を実施し、その後、2泊3日で実施の全体指導者養成講習につなげることにした。

2 参加対象及び募集人員

青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある者で、自然体験活動指導者として登録する意志のある者（18才以上）を、各回30名募集した。

3 参加状況

(1) 研修Ⅰ（6月20日）

男性19名、女性15名 合計34名
（社会人14名、大学生20名）

(2) 研修Ⅱ（8月4日）

男性22名、女性27名 合計49名
（社会人22名、大学生27名）

4 実施上の留意事項

(1) 参加者が研修へ参加しやすいように、日帰りで研修とした。

(2) 講義Ⅰ「学校教育における体験活動の意義」、講義Ⅱ「教育課程と体験活動の関連性」を実施する中で、「安全管理」の内容についてもふれてもらった。

(3) 実習「クラフト」も取り入れ、魅力ある研修内容とした。

5 活動のようす

研修Ⅰ（6月20日）

今年度1回目の補助指導者研修が行われた。



《さあ、講義の始まりです！》



《誰の手かなあ？》



《あだんの葉で風車をつくろう！》



《さあ、あと少しだ！》



《これ、どーやるんだろうねえ？》



《研修Ⅰの参加者・スタッフ》



《なかなか難しいなあ！》

研修Ⅱ（8月4日）

2回目の補助指導者研修が行われた。



《講義開始》



《みなさん、積極的ですね!?!》



《あだんの葉。手を切らないように!》



《さあ、協力して成功だ!》



《マーニでつくるお魚》



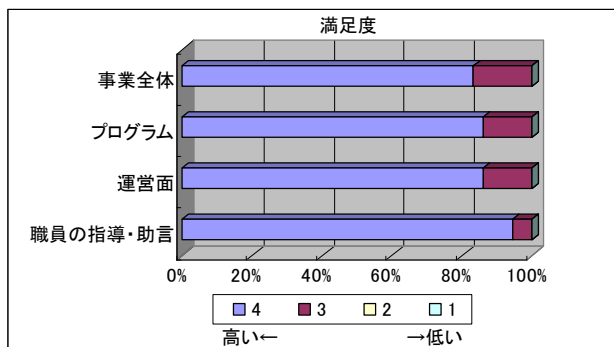
《どうしたら、早く通せるかな?》



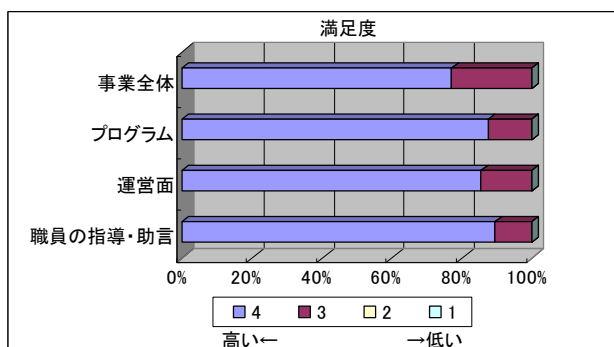
《研修Ⅱの参加者・スタッフ》

6 アンケート結果

(1) 研修Ⅰ（6月20日）



(2) 研修Ⅱ（8月4日）



(3) 参加者の声

- 全員が参加できるプログラム内容なので良かった
- 日帰りで参加できるのできつなく、参加しやすかった。
- 日帰り研修という短い時間の中で、理論と実践の両方を学習できたのでよかった。
- 大学だけでは学べないことが短時間の中に多くあった。
- 職員には、しっかりとした対応をしていただいた。
- 植物を使ったクラフトは、明日からすぐに活用できそうな内容で、興味をひかれた。
- ▲野外活動の理論と実践の話をもっと聞きたかった。
- ▲講義は理論的だったが、内容を的確に伝えて欲しい。
- ▲教育課程に組み込むための具体例がもっと聞きたかった。
- ▲クラフトの時間を長めに取って欲しい。
- ▲少し時間が短い。受講者間の交流の時間が欲しい。
- ▲本事業のねらいについての説明がもっと欲しかった。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- (1) 自然体験活動指導者としての基本的なスキル（知識、技術）の向上を図れた。
- (2) 日帰り研修、そして会場を本島内の青少年教育施設としたことで参加しやすくなり研修参加者が増えた。

- (3) 自然体験活動に興味関心のある方々の情報交換の場となり指導者間の連携のきっかけとなった。
- (4) 会場を本島内の県立青少年施設（糸満青少年の家）としたことで、他施設職員との連携につながった。

2 今後の課題

- (1) 一般の方や教職員が参加しやすいように、日曜日や夏休み期間に実施したが、予想したほどの参加がなかった。小学校の自然体験活動の教育的効果を高めるために、小学校教職員の参加を促進する必要がある。
- (2) 一部大学生の受講態度が悪く、社会人の参加者から不満の声があった。研修受講の目的意識をしっかりとらせ、受講させることが大切である。
- (3) 研修内容について、体験活動の技術の習得ということで「クラフトづくり」を行ったが、現場で実際に活用できる内容をもっと学びたいという希望が多い。全体指導者養成研修で実施する内容を補助指導者養成研修で行うなどの検討が必要である。

Ⅳ おわりに

今回、補助指導者養成研修を日帰りで実施し、場所についても本島内の青少年教育施設で行った関係から参加者が増え、自然体験活動指導者養成が概ね目標達成できたと考える。

今後も課題や受講者の声を真摯に受け止め、実のある研修を実施し、有能な指導者を数多く育成したい。